

混沌とした中から

混沌とした世界にどっぷり浸かって (6)

新しい年に入って最初の話が金額の話で申し訳ないのですが、FM-8に使うために出張に東京へ行ったときに秋葉原へ行って5インチフロッピーを買いに行ったことがあります。5インチフロッピーって最終的にはいくらになったのでしょうか。10枚が一箱で、500円ぐらいだったような気がします。その当時、秋葉原でさえ10枚で12,000円が一番安かったような覚えがあります。それも「IBM」の製品でした。そのとき買ったかどうかは覚えてないのですが、せっかくいったのですから買って来たのではなかったのでしょうか。

その頃のパソコンはBASICが中心で、いろいろプログラムを趣味で作ろうとはしていたようですが、あまりものになったものがなかったような気がします。3Dグラフィックのプログラムを考えたりしたのですが、なかなかでした。このころはシャープのMZ-80Bや東芝のPASOPIAなどが発売になり、この後にNECのPC-6001や富士通のFM-7などが発売と、テレビの宣伝も始まり、徐々に一般に使われる本当の「パソコン」が発売になり始めた頃です。しかし、FM-8が248,000であったのに対して、次の年に発売になったFM-7がその半額の128,000であったわけで、確かに一般的に購入できる価格になったわけですが、その後発売させたゲームソフトなどがFM-7だけが対応していたりなど「あれっ」と思ったものです。それに、FM-8には次のメモリとされていたバブルメモリ用のスロットを付けることができるようになっていました。バブルメモリは大学時代に授業で次のメモリとして講義を受けたもので、32kBの大容量（その当時とすれば大容量なのです、後から64kBのものも発売予定だったのですが）で、電源がなくてもデータが消えないというものでした。そのほかにも、その頃OSとしてCP/Mが出始めた頃で、Z-80の基盤を追加することによって使えるという機能も持っていましたが、両方とも使いませんでした。

一方会社のパソコンですが、81年ごろに営業にいたのですが、そこにワープロが導入されました。東芝のワープロで、ほとんど最初のワープロであったのではないのでしょうか。ワープロといっても机1つの大きさで、プリンタからグリーンディスプレイ、HDD、FDDなどが一体になった大きなものでした。フロッピーは8インチで、ハードディスクは12インチぐらいの20MBの容量で、その頃通称お釜が入ったものでした。結構使っていましたが、新入社員の女の子がだいぶたってなれた頃ハードディスクの中身をすべて消して大変なことになったことがありました。経理部門にはすでにオフコンが導入されていたからだいぶ進んだ会社ではあったようです。パソコンとしては、PC-9800VMやFM-16βなどを使っていました。その頃は開発部門にいたので、パソコンCAD（アスキーのCANDYなど）で設計したり、ワープロ（この頃は一太郎です）で報告書を書いたりしていました。そのうち設計部門に88年ごろにCADが導入され、だいぶ情報化が整っていたような気がします。そういえば、FM-16βは発売当初CP/MをOSにしていたのですが、直前に登場したPC9801M2がMS-DOSを採用していたからかすぐにMS-DOS対応になって、すぐに変更した記憶があります。

こうしているうちに、自分のパソコンとして87年に登場したPC9801VX21を購入することになります。確かCPUが80286が搭載されたパソコンで、CPUがNECの独自のものから変わってすぐのタイミングだったはず。 (次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 1月10日号

特集 セキュリティ診断「厳選40題」

→セキュリティが注目されている。コンピュータウイルス、スパイウェア、ネット詐欺、フィッシング詐欺など脅威は増え続けている。40問のセキュリティに関する問題でセキュリティレベルが把握できる。

特集 欲しいコンテンツはネットで買え!

→アニメ、スポーツ、音楽、ドラマなどいろいろなコンテンツがネット上にある。そのようなコンテンツ配信サイトを一覧。決済もクレジットカードだけでなくコンビに決済、Edyカードなど選択肢が広がっている。